

4 漢方薬が奏効した慢性前立腺炎の2例

広島大学大学院医系科学研究科 腎泌尿器科学

北野 弘之、日向 信之

【緒言】慢性骨盤痛症候群に対して漢方薬が著効した2例を報告する。

【症例1】44歳男性、会陰部痛を主訴に紹介受診した。前立腺マッサージ後(VB3)の尿検体で膿尿と細菌尿を認めず前立腺炎症候群Ⅲbと診断した。NIH-CPSIは10点と中等症に分類され、痛みの領域スコアは2点、排尿症状のスコアが2点、QOLへの影響のスコアが6点であった。前医にてセルニルトンや抗菌薬が処方されていたが治療効果を認めず患者への問診にて勃起障害を認めた為、補中益気湯2包2×食前で開始して12週間後にはNIH-CPSIは3点まで低下した。痛みの領域スコアは0点、排尿症状のスコアは1点、QOLへの影響スコアは2点に低下した。

【症例2】35歳男性、会陰部不快感を主訴に紹介受診した。VB3で膿尿と細菌尿を認めず前立腺炎症候群Ⅲbと診断した。NIH-CPSIは23点と重症に分類され、痛みの領域スコアは8点、排尿症状のスコアが3点、QOLへの影響のスコアが12点であった。前医にてセルニルトンなどが処方されていたが治療効果を認めず、桂枝茯苓丸2包2×食前で開始した。36週間後のNIH-CPSIは16点まで低下した。痛みの領域スコアは7点、排尿症状のスコアは4点、QOLへの影響スコアは5点に低下した。

【結語】症例1ではCPSIが70%低下、症例2では30%ほど低下し一定の治療効果を認めた。